



三菱創業150年

三菱財団×中央共同募金会 ～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～ 「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」助成決定にあたって

2020年9月10日

1. 応募状況の概要

- 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成への応募は、82件（1億8,538万0,516円）でした。
- 応募した団体の所在地は、東京都が24件、愛知県、兵庫県が10件、大阪府が7件、神奈川県、京都府が4件、埼玉県が3件、北海道、千葉県、山梨県、三重県、福岡県が2件、岩手県、茨城県、群馬県、長野県、静岡県、滋賀県、岡山県、広島県、香川県、佐賀県が1件であり、外国にルーツがある人々の居住割合が高い地域からの応募が多い状況でした。
- 応募した団体の法人種別は、NPO法人が41、任意団体が19、公益財団法人が11、一般社団法人が5、社会福祉法人が2、NGO・一般財団法人・宗教法人・合同会社がそれぞれ1でした。

2. 助成決定の概要

- 応募いただいた団体の審査を行った結果、55団体、総額1億円の助成を決定しました。
- 財源が限られていることから、応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性・緊急性が高い活動であると応募書から判断されるものを優先して決定いたしました。

3. 助成決定にあたって（委員長コメント）

本助成は、三菱創業150周年を記念した社会貢献事業の一環として供出された公益財団法人三菱財団からの資金を原資に、公益財団法人三菱財団と社会福祉法人中央共同募金会が共同で実施し、新型コロナウイルス感染拡大によって、生活に困窮する国内在住の外国にルーツがある人々を支援する活動を、資金面から応援することを目的としたものです。

外国にルーツがある人々への支援活動は、民間非営利においても、社会福祉や国際理解・交流など多様な分野にまたがるものとして、これまで焦点が当たってこなかった活動領域の一つであり、今回三菱財団と中央共同募金会による共同プログラムの助成として、そうした領域の活動に光を当てることができたことは、社会にとって大きな意義のあるものだと感じています。

応募があった82件のうち、助成として55件が採択され、1億円の助成が決定しました。コロナ禍により孤立する人々、学校休校に伴い日本語に触れる機会が激減した子どもや若者たち、コロナ禍により職や住居を失い生活が困窮する人々（留学生を含む）、母国の入国制限による帰国困難者や難民の人々に対して、個別の相談支援や生活・就労支援の活動、学習支援や居場

所提供の活動、多言語による情報提供の活動、医療通訳や同行支援の活動など、多様な活動がみられました。またコロナ感染下における新たな活動手法として、オンライン化をすすめる団体も数多くみられました。

今回は、幅広い取り組みをされている様々な規模の団体から多くのご応募をいただき、少しでも多くの団体を応援したい審査委員の思いもあり、審査に大変苦慮いたしました。しかしながら、どの団体の取り組みも、社会にとって大きな財産になると考えております。

日本に暮らす外国にルーツがある人々が年々増えている中で、彼ら彼女たちを支える活動は、今後よりいっそう必要とされるものです。その一方で、このような取り組みがまだまだ草の根レベルで支えられていることが、ご応募いただいた団体のこれまでの活動実績から伺えました。

このたび、新型コロナウイルス感染拡大という思いもよらぬきっかけではありますが、三菱グループ並びに三菱財団の多大なるご厚意により、外国にルーツがある人々やその方たちを支える取り組みについて、広く社会に知っていただく機会となったことは大変意義深いことだと思えます。感染の終息を祈念するとともに、これからこのような取り組みへ、社会がもっと光を当てていく契機になることを願っております。

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」審査委員会
委員長 上野谷加代子